

接尾辞「チック」について

——「CD-毎日新聞」(1991-2005)およびBCCWJを用いて——

村 中 淑 子

1 はじめに：本稿の目的

接尾辞「チック」とは、たとえば、ロマンチック (romantic)、エキゾチック (exotic)、ドラマチック (dramatic) のような外来語の一部として日本語に入ってきたものである。

英語の場合、-tic は -ic の異形とされており、「…の、…に関する、…的な」の意の形容詞を作る接尾辞である (ジーニアス英和大辞典)。たとえば上記の romantic, exotic, dramatic においては -tic の形であるが、Platonic や heroic, Arabic などにおいては -ic の形となっている。

日本語の場合、「イック」ではなく「チック」の形が接尾辞として機能しているとみてよいだろう。たとえば、漫画チック、乙女チックといったことばは、すでになじみのあるものである。それぞれ、漫画、乙女という名詞に「チック」が接尾辞として付いて、ナ形容詞を形成し、「漫画チックな事件が起きた」「乙女チックな空想に耽る」のように使用される。

本稿では、「○○+チック」の形の造語に注目する。すなわち、ロマンチック・エキゾチックのような、英語における単語がそのまま日本語のナ形容詞として使われるようになったものではなく、漫画チック・乙女チッ

* 本学国際教養学部

キーワード：接尾辞、造語、新聞、BCCWJ、コーパス

クのような、日本語における既成の語に「チック」が後接して新たなナ形容詞となったものに注目する。外来語由来の接尾辞「チック」の使用状況と造語力について調べたい、というのが目的である。

外来語が日本語に占める割合が増加しつつある、という指摘は頻繁になされている。雑誌や新聞等の語彙を対象とした計量的研究が行われており、外来語語彙使用の経年変化を知ることができる（国立国語研究所1964、国立国語研究所1987、国立国語研究所2005、橋本2010など）。「トラブル」や「メリット」などの単語の使用状況の経年変化に注目した研究もある（金2006a、金2006b、柏野2007、宮田2007、茂木2007、茂木2008等）。

しかしそれらの研究は、語彙レベル、もしくは単語レベルの現象に着目したものである。単語を形作る一部分としての外来語、すなわち、接尾辞・接頭辞などの造語成分レベルの外来語が、日本語の中でどのような位置を占めているか、またその要因は何であるか、などについては、あまり研究が進んでいないとみてよいだろう。

野村1977は「外来語が（中略）造語能力をもつものとして、漢語につぐ存在となりつつある」、野村1984は「外来語は借用の段階をこえて、造語の問題にふかくかかわろうとしている」と述べており、接尾辞・接頭辞などの造語成分レベルの外来語の存在を指摘している。外来語由来の接辞を列挙したものとしては、森岡1985、田辺1990、永田1994、鈴木2008等があり、造語成分の網羅を目指して辞書調査を行った研究に山下2007がある。しかし、外来語由来の接辞を個別的に詳しく扱った研究は見当たらない。

そこで本稿では、語彙レベルもしくは単語レベルの現象だけでなく、造語成分レベルの外来語の、日本語におけるはたらきを詳細に知ることに意義がある、という観点から、対象を「チック」にしぼり、その実態について考察する。前掲の金2006a・金2006bは、抽象的な意味を持つ外来語の中に、日本語の基本語彙の仲間入りをしたものがあること、またその要因は

接尾辞「チック」について

言語内的に明らかにすべきことを指摘している。外来語由来の接辞も「抽象的な意味を持つ外来語」に該当するであろうが、「チック」の場合は基本語化していると言えるのかどうか、その点についても検討したい。

次章以下では、2種類のデータを用いて分析を行う。まず2章で15年分の新聞記事データにおける接尾辞「チック」の使用度数、前接要素、接尾辞「チック」によって形成されたナ形容詞が修飾するもの、出現分野、に注目しながら使用状況を明らかにする。次に3章で書きことばコーパス(BCCWJ)における検索結果を検討する。さらに4章ではそれらを比較しながら「チック」の造語力、および日本語における位置づけについて、考察を進めていく。(以下、本稿では、特に断らない限り、「～チック」は接尾辞「チック」が造語成分として機能した結果として作られた語形を表すこととする。)

2 「CD-毎日新聞」(1991～2005)による調査と分析

2-1 データと検索について

本章で用いたデータは、次のものである。

「CD-毎日新聞」(著作権者：毎日新聞社、発売：日外アソシエーツ)の1991年分から2005年分まで。それぞれ、毎日新聞1年分の東京・大阪本社の朝夕刊最終版の記事をフルテキストで収録したCD-ROMである¹⁾。

1年分ずつ、「チック」をキーワードにして検索を行ない、目的以外のものをいちいち取り除いた。著作権の関係で、CD-ROMにおいてはタイトルと掲載年月日しか検索できない記事がいくつかあったが、それらに関しては、縮刷版で該当箇所を探し、内容を確認した。

2-2 「～チック」の使用度数の変遷

「CD-毎日新聞」(1991年～2005年)によって「～チック」を検索した

結果を、表1に示す。横軸の「漫画系」「乙女系」「SF系」は、まとまった数の出現があったため、項目として立てたものである。

15年間で39件、1年あたり平均2.6件と低頻度であるが、使われていない年は無く、安定的・継続的な使用が行なわれていると見てよいだろう。

この2点、すなわち、①なぜ頻度が少ないのか、②なぜ安定した使用があるのか、の要因については、後で検討する。

表1：毎日新聞全記事における「～チック」の語形と出現度数の推移
(2回以上出現した場合は、語形の後ろに回数を示した)

出現年	漫画系	乙女系	SF系	その他	計
1991	漫画チック				1
1992	漫画チック	乙女チック	SFチック 3		5
1993	漫画チック 2				2
1994		乙女チック	SFチック	演歌チック	3
1995	劇画チック				1
1996	少女漫画チック	乙女チック		成金チック	3
1997	漫画チック 2			小説チック	3
1998		少女チック			1
1999	漫画チック 2				2
2000				おもちゃチック 変態チック レトロチック	3
2001	漫画チック	乙女チック		古典チック 劇場チック	4
2002	漫画チック			おばちゃんチック	2
2003		乙女チック		反動チック 絵画チック SMチック	4
2004				映画チック	1
2005	漫画チック 少女漫画チック			絵画チック 2	4
計	14	6	4	15	39

接尾辞「チック」について

2-3 「チック」の前接要素

表1から前接要素の全般的な傾向をみると、「漫画」「乙女」の2つで約半数を占めており、この2つについては、「漫画チック」「乙女チック」という語がすでにナ形容詞として固定化しているともみえる²⁾。そのほかの前接要素についてはばらばらであり、チックの付いた形が固定化しているとはみえない。「チック」がさまざまな語に付いて、新しく語を作る力をもっていることが伺える。

「漫画系」としてまとめたものの中に「劇画チック」1件「少女漫画チック」2件、「乙女系」としてまとめたものの中に「少女チック」が1件ある。これは、「漫画チック」「乙女チック」の派生的バリエーションと考えられる。このような派生形が生じうる余地があるということは、「チック」の柔軟性を示すものであろう。

「SF」が4件あるが、このうち2件は同一筆者によるものである。「その他」としてまとめたもののうち、複数回出現しているのは「絵画」の3件であるが、これは3件とも、同一筆者による。「～チック」の特定の形を好んで使う筆者がいることを示唆している、とみてよいだろう。

前接要素は全て語であり、句や文がついたものはない。

前接要素の語種をみると、漢語（漫画、演歌、小説、変態、古典、劇場、反動、絵画、映画）、和語（乙女、おもちゃ、おばちゃん）、外来語（レトロ、SF、SM）、混種語（成金）のいずれもみられるが、漢語が特に多いといえよう。

前接要素の品詞はほとんどが名詞であるが、「レトロ」だけは名詞ではなくナ形容詞である。チックを付けなくても「レトロな」というナ形容詞として使えるのに、わざわざ「レトロチック」という形にしている。

前接要素の名詞群には、なにか意味的な共通点があるだろうか。「漫画」「少女漫画」「乙女」「SF」「演歌」「成金」「おばちゃん」などをみると、

ステレオタイプの的に特徴を取り出しやすいもの、と言えそうである。比較的、揶揄の対象として扱われやすいもの、とも言えそうであるが、では、マイナス評価の意味を帯びるものが多いだろうか。「成金」「変態」「おばちゃん」「反動」「SM」はマイナスに傾くものであるといえるだろう。しかしこれはあくまでも前接要素単独でとらえた場合である。チックが付いてできた語が、ある文脈に置かれた場合、どのようなニュアンスを帯びるかについては、次節以降で見ていくことにする。

2-4 「～チック」の品詞性

ここで「～チック」の品詞としての性質を確認する。表1の「～チック」の語形39件について、直後に来る形をみると、次の通りである。「～チック」はナ形容詞であるとみて問題ないだろう。

～チックな [名詞] 21, ～チックに [動詞] 7, ～チックで 5,
～チックだ 2, その他 4 (～チック過ぎる／と／。／ [名詞])

2-5 「～チック」は何をどのように形容するか

ここでは、ナ形容詞「～チック」が何をどのように形容しているのかを、前接要素ごとにみていく。

2-5-1 「漫画チック」が形容するもの

まず、一番多かった「漫画チック」について。目立つものとしてまず挙げられるのは、映画やテレビ番組等における人物造形への形容に使う例である。

(1) NHK ドラマ「秀吉」の竹中直人のキャラクターが漫画チックともいわれ、評価が大きく分かれた。だが、私は大河ドラマの型にとらわれず竹中秀吉の良さが出たドラマだったと思う。

接尾辞「チック」について

(1997/1/6朝刊, 40歳主婦の投稿)

(2) キャラクターは、かなり漫画チックになっていて、小さい子でも退屈しないだろう。
(1999/3/12夕刊, 映画「バグズ・ライフ」評)

(3) おまけにブラナー [筆者注³⁾: ケネス・ブラナー] の漫画チックな表現も楽しい。

(1999/12/3夕刊, 映画「ワイルド・ワイルド・ウエスト」評)

(4) ただでさえ漫画チックで派手な囚人服で街を行く三人 [ルー大柴とナインティナイン] に「これでは一時間で捕まってしまって番組にならない」とスタッフを心配させたが (略)

(1993/11/26朝刊, テレビ東京の番組紹介「逃亡者! 東京大捜索」-ルー大柴ら“3容疑者”12時間で捕まるか-)

(4)の例は、「囚人服」を修飾しているともとれるが、「三人」を修飾しているとしたら、ルー大柴とナインティナインの、顔や姿形、身体の動きや顔の表情も含めたようすを「漫画チック」と形容していると考えられ、人々に見せるものとしての自己演出も含めた人物造形の形容であるととれる。

映画・テレビにおける人物ではなくても、知り合いの人物を公の場で説明するための談話において使われている例があった。

(5) 「早川さんのキャラクターの問題もあるが、歩いている人を倒すところを想像できますか? 早川さんは漫画チックなところがあるんですよ」

(1997/9/20朝刊, オウム裁判の記録における端本被告の証言)

さらに、人物ではなく、競馬馬の性質を擬人的に形容した例もあった。

(6) 「漫画チックでお人好し」

(1992/12/26朝刊, 更級四郎『馬ものがたり』の紹介, 名馬グリーングラスについて)

次に挙げるのは、人々の行動の結果生じた状況・事物について、形容し

た例である。

(7) 漫画チックに描く，政府の危機管理

登場する人物設定のおかしさ，おもしろさは抜群だ。(略)個性があふれ魅力的。(略)漫画チックな味わいがあり，ユーモアたっぷり。笑いこぼしてしまう⁴⁾。(2001/6/11夕刊，落合信彦『騙し人』への批評)

(8) 漫画チック過ぎる弁済金プール

裏金プールに備え，返済金プールというのも漫画チックです。ブラックジョークですか。

(2002/3/19朝刊，投稿欄，77歳無職の人の投稿，外務省の裏金に関して)

(9) 京都では醜悪な京都タワーができ，京都が京都を否定しだした。私たちは京都じゃないんだぞーって。それをもっと高いボリュームで発信したのは京都駅の駅ビル。巨大で，漫画チックで。

(2005/12/9夕刊，アレックス・カー氏へのインタビュー記事)

最後に挙げるのは，絵についての形容の例である。

(10) (略) 学生に自画像風を課題としましたが，最近の学生は自分を漫画チックに表現するのが実に上手ですね。

(1991/4/26夕刊，彫刻家広井力氏の談話)

(11) 同店では(略)おひなさま手ぬぐいも用意している。男びな，女びな，三人官女，五人ばやしが漫画チックに描かれているだけだが，(略)

(1993/2/16朝刊，記事「にぎやか「ひな祭商戦」皇太子妃決定で追い風に」)

以上をまとめると，「漫画チック」が形容するものは，およそ次の2つであり，プラス評価的な例もマイナス評価的な例もある。

①「大げさ」「表現にメリハリがある」「誰にでもわかりやすい」「滑稽

接尾辞「チック」について

味がある」「現実とは思えないおかしさがある」というような、漫画のステレオタイプの特徴をもつ人物・状況・事物を形容する場合

②漫画に似たタイプの絵（単純化、かわいらしさ、滑稽味等の特徴をもつもの）を形容する場合

漫画系としてまとめた「劇画チック」は、映画のカメラワークについて評したもの（1995/12/5夕刊、映画「クイック&デッド」評）、「少女漫画チック」は、初期のレディースコミックを形容したもの（1996/7/16夕刊）と、韓国映画の見せ場（キスシーンなど）を形容したもの（2005/3/25夕刊）であった。これらは、形容される側（映画のカメラワーク、レディースコミック、映画の見せ場）と、形容する側（劇画、少女漫画）が、もともと類似のカテゴリ（視覚的表現芸術）に属するものであるという点で、上記の②と共通している。

2-5-2 「乙女チック」が形容するもの

「漫画チック」に次いで多かった「乙女チック」について。典型的な使い方としては、次のような例が挙げられる。

(12) とても優しい先生に私はあこがれていた。(略) 胸のドキドキは心臓病ではなく、あこがれゆえのときめきだと年がいてもなく乙女チックなことを思いめぐらしていた。

(1994/2/11朝刊、「女の気持ち」投稿欄、主婦53歳)

(13) たばこを吸い、酒を飲む豪快さの反面、恋愛ドラマに号泣する乙女チックな役に、小泉は「今までにない役。(略)」

(2003/12/4夕刊、小泉今日子へのインタビュー)

これらの「乙女チック」は、「年若く経験の少ない女性（すなわち乙女）が（恋愛に関して）持っている」と想定されるような、素直な感受性を持つ

ているようす」の形容として使われているとみてよいだろう。

上記の例2つにも、また次の(14)にも言えることであるが、「乙女チック」を人物描写として使う場合は、いかにも「乙女チック」な人物というよりはむしろ、「乙女チック」でない部分がかかなりある人物（上記の例の中の「年がいもなく」や「豪快さの反面」等の表現を参照）について、意外な側面があることを好意的に説明する場合に使われる傾向があるようである。

(14) そんな瀬川さん [瀬川瑛子] が「おしゃれカンケイ」にやって来ました。(略) 過去の恋の話、乙女チックな女子高生のような部屋、一心不乱の応対が温かい。 (1996/9/6夕刊, 腰山一生氏によるテレビ番組評)

ほかの「乙女チック」の例は、人物とは関わりなく、音楽やマンガ等の芸術表現を形容するものであった。

(15) ユーモラスな君平さんの詩のイメージを、若い女性向きに、カラッと明るく、乙女チックな女声合唱組曲に仕上げている。

(1992/4/3朝刊, 「話のポシュット」という小記事欄)

(16) 『りぼん』で活躍する乙女チック少女マンガのよい意味での後継者 (略) (2001/7/6夕刊, ヤマダトモコ氏によるマンガ・書評)

2-5-3 その他の「～チック」が形容するもの

「漫画チック」「乙女チック」以外の「～チック」の例を見わたして、目につく特徴を挙げよう。

「漫画チック」に見られたように、隣接領域の大衆芸術を説明するための形容表現として「～チック」が用いられている例がある。

(17) 奇をてらわぬ落ち着いたロックサウンドに、演歌チックでシンプルなメロディーと歌詞が乗り、一度聞くと忘れられぬ魅力がある。

(1994/2/21夕刊, 音楽評, スターダスト・レビューの曲について)

接尾辞「チック」について

(18) 仲田のかなは、優美な線の流れと絵画チックなイメージが1つの特徴であるが
(2003/5/22夕刊、書についての批評)

(19) 彼は、映画チックな甘いピアノ協奏曲「シルク・ロード」を自ら作曲して弾くかと思えば、怒とうのようなモーツァルト「トルコ行進曲」を展開する。(2004/4/5夕刊、クラシック音楽評、ファジル・サイについて)

これらはそれぞれ、ロック音楽を「演歌チック」、書道を「絵画チック」、ピアノ曲を「映画チック」、と表現している。

「～チック」に形容されるものが誰に属するか、という視点から見ると、発信者自身の思考や産物、行動、見た目などを、やや自嘲的に形容する場合に使われる例が散見される。

(20) 思えば子供のころ、「(略)」などというSFチックな思いで、ギャグを飛ばしあったりしたものだ。

(1992/8/15夕刊、コラムニスト小杉なんぎ氏のエッセイ)

(21)=(12) とても優しい先生に私はあこがれていた。(略) 胸のドキドキは心臓病ではなく、あこがれゆえのときめきだと年がいてもなく乙女チックなことを思いめぐらしていた。

(1994/2/11朝刊、「女の気持ち」投稿欄、主婦53歳)

(22) 中谷美紀ふんする美しい人妻が(略)サスペンス。「変態チックな愛を見て下さい」と笑う中田監督に聞いた。

(2000/10/23夕刊、映画「カオス」の監督へのインタビュー)

(23) 東急ハンズでアルミのドカベン弁当箱を購入したり、頭にはアイパーをあてて柳屋ポマードや丹頂チックで整髪するなど、物狂おしいほどレトロチックな生活スタイルを追い求めていた。

(2000/11/5朝刊、日曜くらぶ、申間努氏)

(24) 地人会が「アンチゴーン」30年ぶりの上演、南果歩・有川博で-東京

で3日から

南 [果歩] はこう語る。「(略) せりふに敬語や比喩が多く、今の人には古典チックに聞こえるかもしれません」 (2001/6/1夕刊)

㉕) 35歳、今がチャレンジどき

「昼のドラマは初めて。これでおばちゃんチックになっちゃうんじゃないかと心配しました (笑い)」(略)「母親役をやっていると、おうちに帰っても、つい腰に手を当てて、おばちゃんらしくなってるの (笑い)」

(2002/6/28夕刊。南野陽子へのインタビュー)

㉔)の「SFチック」は自分の過去の空想について、㉑)の「乙女チック」は医者への自分の思いについて、㉒)の「変態チック」は自分の監督した映画について、㉓)の「レトロチック」は過去の自分の生活について、㉔)の「古典チック」は自分が出演する演劇のせりふについて、㉕)の「おばちゃんチック」はいわゆる昼ドラ(平日午後早い時間帯に放送される主に主婦層向けの帯ドラマ)に出演する自分について、それぞれ形容している表現である。やや自嘲的、あるいは謙遜、というようなニュアンスが感じられる。

以上、2-5 で述べてきたことをまとめると次の通りである。

「～チック」は、前接要素である名詞のステレオタイプの特徴を持った人物造形・状況・事物等の形容に使われる。

「～チック」は、大衆芸術を説明するための形容表現に使われる。なかでも、前接要素と被修飾要素が隣接領域である場合がよくみられる。

「～チック」には、自嘲的、意外さ、揶揄、といったニュアンスが生じやすい。

2-6 「～チック」はどのような新聞記事に出現するか

接尾辞「チック」について

「～チック」は、どのような分野・ジャンルの新聞記事に出現しているのか。

繰り返しになるが、本稿で用いたデータは、毎日新聞の東京・大阪本社の朝夕刊最終版の記事のフルテキストを収録したCD-ROMである。つまり、日本のある全国的な一般紙における、全紙面のすべての記事である（中山・桐生・山口2007の用語でいえば、すべての「面種」、すなわち1面・2面・3面・スポーツ・家庭・科学・解説・経済・芸能・国際・社会・社説・総合・特集・読書・文化の16種すべての記事である）。

しかし、前節の例文をみてもわかるように、新聞において「～チック」の出現する箇所は、非常に狭く限定されている。具体的に挙げるならば、本・映画・演劇・テレビ番組・音楽などの紹介記事、エッセイ類、読者の投稿欄、ほのぼのとした楽しい感じの軽めの小記事、インタビュー記事、などである。

ここで「ほのぼのとした軽めの小記事」と呼んでいるのは(1)のことであるが、他にも次のような例がある。

㉞ 真新しい札幌ドームは観客席の傾斜が急で、緩やかなカーブを描く天井には照度の高いライトが輝く、モダンな造りだ。巨人・原ヘッドコーチが思わず「劇場チックだなあ」ともらしたほど。こけら落としのゲームも芝居のように展開した。
(2001/6/27朝刊, プロ野球)

このように、接尾辞「チック」が使われる分野・ジャンルにはかなり強い制限がかかっていると思われる。「面種」よりもさらに狭いカテゴリで考える必要があるだろう。ここでは、その文章の目的から考えてみる。まとめると、次のようになる。

新聞記事の場合、次の(ア)(イ)(ウ)のいずれかの条件にあてはまる文章において、接尾辞「チック」が用いられる可能性がある。

(ア) 情報提供を目的とせず、娯楽提供を目的とした文章。

- (イ) 情報提供を目的とした文章の場合は、大衆的な表現芸術の批評・紹介がテーマとなっている場合。
- (ウ) 文章の目的に関わらず、特定の人物の口頭言語として、カギカッコ等でくくられ、その文言が直接的な形で引用されている場合。

2-7 まとめ：15年間の新聞記事における接尾辞「チック」

以上、毎日新聞記事データ（1991～2005）を用いて接尾辞「チック」を調査・分析した。結果をまとめると次の通りである。

- ① 1年間あたり平均2.6件と低頻度である。
- ② 15年の間、途切れず毎年出現し、安定的・継続的な使用がある。
- ③ 前接要素は語である。語種は選ばない。
- ④ 前接要素は通常、名詞である。まれにナ形容詞の場合がある。
- ⑤ ステレオタイプ的な特徴を取り出しやすい名詞を前接要素とする傾向がある。
- ⑥ 「漫画チック」「乙女チック」については、ほぼ固定的な形となっている。
- ⑦ 「～チック」の品詞は、ナ形容詞である。
- ⑧ 前接要素である名詞のステレオタイプの特徴を持った人物造形・状況・事物等の形容に使われる。
- ⑨ 大衆芸術を説明するための形容表現に使われる。なかでも、前接要素と被修飾要素が隣接領域である場合が、よくみられる。
- ⑩ 自嘲的、意外さ、揶揄、といったニュアンスが生じやすい。
- ⑪ 書きことばとしては、「娯楽提供を目的とした文章」もしくは「大衆的表現芸術に関する批評・紹介等の情報提供をする文章」において用いられる。
- ⑫ 話しことばをそのまま写した直接引用のなかで用いられる。

3 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』による調査と分析

3-1 データと検索について

2章で、15年間の新聞記事における接尾辞「チック」の使用状況を調べ、一定の見通しを得た。

本章では、新聞も含めた現代日本語全般における接尾辞「チック」の使用状況を確認するため、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(略称BCCWJ)を用いる。「中納言」(検索ツール短単位検索 Web アプリケーション)によって検索し、検索結果として出現した語形を、次節で表2として示す⁵⁾。

BCCWJで「中納言」を用いて検索できるデータは、合計約1億480万語である(2011年3月現在)。新聞・雑誌・書籍・教科書・白書・広報紙⁶⁾・法律・韻文・国会会議録・Yahoo!知恵袋・Yahoo!ブログの11種のデータから、それぞれ無作為抽出によってサンプルが抜き出されている。11種のデータの発行年、サンプル数、句読点・記号を除いた推定語数は次の通り。

- ・書籍(1971～2005年, 21,943件, 約6,230万語)
- ・雑誌(2001～2005年, 1,989件, 約440万語)
- ・新聞(2001～2005年, 1,479件, 約140万語)
- ・白書(1976～2005年, 1,500件, 約490万語)
- ・教科書(2005～2007年, 412件, 約90万語)
- ・広報紙(2008年, 354件, 約400万語)
- ・Yahoo!知恵袋(2005年, 91,445件, 約1,030万語)
- ・Yahoo!ブログ(2008年, 52,680件, 約1,030万語)
- ・韻文(1980～2005年, 253件, 約20万語)
- ・法律(1976～2005年, 346件, 約100万語)
- ・国会会議録(1976～2005年, 159件, 約510万語)

(<http://www.kotonoha.gr.jp/shonagon/> による。

http://www.ninjal.ac.jp/kotonoha/ex_6.html も参考にした。)

「～チック」の場合、辞書項目として立てられていない造語を目的として検索するため、「短単位検索」「長単位検索」ではなく、「文字列検索」を行った。「～チック」を網羅的に取り出すために、次のような手順で検索した。まず、サブコーパスごとに分けて検索した。すなわち、「新聞」「雑誌」「白書」「ベストセラー」⁷⁾「Yahoo! 知恵袋」「Yahoo! ブログ」「法律」「国会会議録」「広報紙」「教科書」「韻文」については、それぞれ文字列「チック」で検索し、結果を「キー」で並べ替えて見やすくした上で該当のものを取り出した。以上のサブコーパスにおいては、「チック」のヒット数は500以下であった。「流通・書籍」「生産・書籍」については、文字列「チック」で検索するとヒット数がそれぞれ790件と620件で、そのうちのランダムな500件しか表示されないため、「スチック」を含むものと「スチックを含まずチックを含むもの」に分けて検索することにより、ヒット数を500件以下にして検索結果全てを表示できるようにし、網羅性を確保した（村中2011で見たとおり「チック」を含む文字列には「プラスチック」が多いためこの方法をとった）。ただし、「流通・書籍」は、「チック」790件、「スチック」426件、「スチックを含まないチック」364件、でズレはなかったが（ $426+364=790$ ）、「生産・書籍」では「チック」620件、「スチック」302件、「スチックを含まないチック」317件で、1件のズレがあった（ $302+317=619 \neq 620$ 、原因不明）。

3-2 「～チック」の語形と出現の割合

「中納言」によってBCCWJを検索し、得られた「～チック」の語形を、表2に示す。表2の縦軸はサブコーパスである。「～チック」の出現がゼロだったサブコーパス（新聞・教科書・白書・広報紙・法律・韻文・ベス

接尾辞「チック」について

表2：BCCWJにおける「～チック」の語形

(語形のアイウエオ順。2回以上出現した場合は語形の直後に出現回数を記した。計は、延べ数。)

Yahoo! ブログ	アニメチック 2, インスタントチック, 樫岡さんチック, お菓子チック, オカマチック, オカルトチック, 乙女チック 4, おまけチック, 喫茶店チック, ギャグチック, ギャルチック, 求肥チック, クワガタポイントチック, 劇画チック, 高級チック, サスペンスチック, サバイバルチック, 首都圏チック, 聖子ちゃんチック, 制服チック, セーラー服とほにやらら編チック, 低音チック, 展望台チック, 天ぷらチック, 箱庭チック, バブルガールズチック, 変態チック, マンガチック, 漫画チック, ミリタリチック, ミルフィーユチック, メビウスチック, メルヘンチック 6, やらせチック, 夕日チック, リアルチック, レトロチック	計 46
流通・ 書籍	英語チック, オカルトチック, オトメチック 2, 乙女チック 4, 芸術チック, 童画チック, 変態チック, ボルノチック, マンガチック, メルヘンチック 6, 物語チック, 理系チック	計 21
生産・ 雑誌	アジアチック 3, SFチック, お菓子チック, おしゃれチック, 女のコチック, 歌謡曲チック, サラシモノチック, 少女漫画チック, 南国チック, 姫チック, マンガチック 2, 漫画チック, 水商売チック, 妖艶チック, レトロチック	計 18
生産・ 書籍	SFチック, オカルトチック, 古典チック, 自動車チック 2, 日本の銭湯チック, 廃墟チック, マンガチック 2, メルヘン・チック, メルヘンチック 6	計 16
Yahoo! 知恵袋	アジアチック, オカルトチック, お嬢様チック, 刈上げチック, カルトチック, 金属チック, 高級チック, コントチック, 哲学チック, 東北弁チック, メルヘンチック 2, 面倒チック, ヤンキーチック	計 14
国会 会議録	スキヤンダラスチック, ムネオチック	計 2

トセラー)については、表に示さなかった。

サブコーパスごとの出現度数を見ると、Yahoo! ブログが圧倒的に多く、書籍、雑誌、Yahoo! 知恵袋がおよそ同程度であるようにみえるが、各々のサブコーパスごとの総語数はかなり異なる。そこで、比較のために、接尾辞「チック」出現度数と各サブコーパスのおよその総語数、および、総語数を1000万語として換算した出現率(小数点以下第三位を四捨五入)を示したものが、表3である。「流通・書籍」と「生産・書籍」はまとめて「書籍」とした。また表3には比較のため出現ゼロの「新聞」も示した。

表3をみると、接尾辞「チック」の出現率は、「ブログ」が最も高く、

表3：接尾辞「チック」の出現度数とサブコーパスごとの出現率

サブコーパス	ブログ	書籍	雑誌	知恵袋	国会	新聞
出現度数	46	37	18	14	2	0
総語数（概数）	1030万	6230万	440万	1030万	510万	140万
1000万語あたりの出現率（概数）	44.66	5.94	40.91	13.59	3.92	0

「雑誌」がそれに次ぐ高さである。その約3分の1程度の数で「知恵袋」が続き、「書籍」はさらにその半分以下である。

2章で扱った毎日新聞記事データには、接尾辞「チック」が低頻度ながら15年間毎年出現していたにもかかわらず、BCCWJのサブコーパス「新聞」では出現ゼロとなっているのはなぜか。2章で扱ったデータは15年間の毎日新聞記事フルテキストデータであったが、BCCWJのほうは、サンプリングによって抽出されたデータであり、新聞の全紙面の全記事ではない。また、母集団の大きさもことなる。毎日新聞全記事の、1年分の総語数は、山口2007の図1によれば、およそ3000万語～4000万語である⁸⁾。15年分であれば、少なく見積もっても4億語を超える。仮に4億語とすると、1000万語に1語の出現割合であれば、4億語の中には40語の出現がある計算になる。2章で見た接尾辞「チック」の出現延べ数は39語であった。つまりこのBCCWJの「新聞」サブコーパスの総語数がもし1000万語であれば、接尾辞「チック」が1回出現してもよいわけであるが（毎日新聞の15年間のデータとBCCWJの「新聞」のデータが等質であると仮定した場合）、実際は「新聞」サブコーパスの語数は約140万語であるので、出現数ゼロはじゅうぶんありうる結果と言えるであろう。

BCCWJのサブコーパスごとのデータ発行年の幅がかなり異なるため、ここでは経年変化はみないこととし、BCCWJを現代日本語のおよその総体を代表するものと見なして、以下、「～チック」の使用状況をみていく。

接尾辞「チック」について

3-3 「チック」の前接要素

表2のとおり、前接要素のバラエティは、大変ゆたかである。異なり数68、延べ数117である⁹⁾。

前接要素の異なり数68のうち、語が66とほとんどなのであるが、句も出現している。「日本の銭湯」「セーラー服とほにゃらら編¹⁰⁾」の2つであり、「生産・書籍」と「Yahoo! ブログ」にそれぞれ出現している。前者の「生産・書籍」の前分脈・後分脈をみると、対談における発言に含まれるものであった。口語性の強いテキストでは、句に接尾辞「チック」がつくことが許容されていると考えられる。

前接要素の語種は、漢語25・和語15・外来語22・混種語4と、やはり語種に制限はない¹¹⁾。しかし新聞記事データに比べると、外来語の割合が比較的多い¹²⁾。

前接要素の品詞を見ると、異なり語数66のうち8件までがナ形容詞である（インスタント、スキャンダラス、リアル、レトロ、おしゃれ、高級、面倒、妖艶¹³⁾。「チック」は、もともとは名詞に後接してナ形容詞を作るためのものだったと考えられ、ナ形容詞に「チック」をつける必要はないはずである。にもかかわらず、わざわざつけるものが1割を超えている。「チック」の持つ性質のうち、ナ形容詞を形成するという文法的機能がはたらかず、それ以外の機能が中心的にはたらくケースが生じてきたと考えられる。

また、前接要素の名詞には、ステレオタイプの特徴を取り出しやすいものが多い、というのが新聞記事データから得た結論であったが、BCCWJのデータには、「サラシモノ」「やらせ」のような、特徴を取り出すことができる名詞と言うよりは、特徴そのもののような名詞が見られた。形容詞に近い名詞ともいえよう。

前接要素に、固有名詞（有名人の名前：楳図さん、聖子ちゃん、ムネオ

[鈴木宗男])が見られるのも、新聞記事データにはなかった特徴である。特定のイメージが多くの人に共有されている有名人の名前が、前接要素として使われている。

毎日新聞記事データ(1991~2005)には出現しなかったが、BCCWJに多く見られる形として、「メルヘンチック」がある(延べ117件のうち21件)。漫画チックや乙女チックと同様、ナ形容詞としてほぼ固定化した形とみてよいだろう。

3-4 「～チック」の品詞性

「～チック」の直後に来る形を分類すると表4の通りである。

「な」「に」「で」および「だ・です」などのコピュラを合わせると104で、やはり「～チック」がナ形容詞であることは動かないようだ。ただ、「無し」(直後に句点や?♪や★などが来て文が終わっているもの)がやや目につく。Yahoo! ブログに多い形で、口語的な用法と思われる。

表4: 「～チック」の直後に来る助詞類

	国会 会議録	生産・ 書籍	流通・ 書籍	生産・ 雑誌	Yahoo! 知恵袋	Yahoo! ブログ	計
な	2	11	16	13	7	24	73
に		3	1	2	2	4	12
で		1	2		2	6	11
だ・です等 ¹⁴⁾				2	2	4	8
の					1	1	2
から		1					1
名詞			2				2
無し				1		7	8
計	2	16	21	18	14	46	117

4 まとめ：「CD-毎日新聞」(1991-2005)と BCCWJ の 検索結果を比較しながら

ここまでみてきたとおり、15年間の毎日新聞全記事データにおける接尾辞「チック」の使用状況と、BCCWJにおける使用状況には、共通点もあるが、相違点も見られる。ここで両者を比較しつつ、「チック」の造語力および日本語における位置づけについて、述べる。

まず、接尾辞「チック」は、造語力のかなりゆたかな接尾辞であると言っ
てよいだろう。前接要素の形は、表1・表2で示した通り、さまざまなバ
ラエティがある。前接要素の語種は、和語・漢語・外来語・混種語のいず
れもありうる。毎日新聞記事データと BCCWJ を比べると、後者には、前
者にはなかった、句に接続した例や固有名詞に接続した例が少数ながらみ
られることから、接続の可能性が広がりつつあることが示唆される。

新聞記事における日本語が、やや規範的・保守的な用法を保とうとする
傾向があるとすると、もともとは、ステレオタイプ的な特徴を取り出しや
すい名詞に接尾辞「チック」が後接してナ形容詞を形成し、そのステレオ
タイプの特徴を有するものの形容に使う、というパターンが基本的であっ
たと思われる。

いっぽう、BCCWJ が、規範的／非規範的、保守的／進歩的、などさま
ざまな日本語を含んだ現代日本語の代表であるとする、現在は上記のよ
うなパターンではないものが増えて、意味用法が広がってきているよう
である。すなわち、「AチックなB」において、Aのステレオタイプ的な特
徴を有するBの形容ではなく、ただ単純に、AにBが似ている、あるいは
Aの有する雰囲気やイメージにBが似ている、あるいはAに関係するもの
にBが似ている、というようなやや曖昧な形容のしかたが増えているよう
に思われる。たとえば、次のような例である。

②7) その中枢となるのが Lingo という Director ならではの簡易なスクリプト言語。これまでのプログラム言語と違い、非常に英語チックで理解しやすい (LBm0_00011)¹⁵⁾

②8) 海母水はヨカッタ。日本の銭湯チックで。汗蒸幕もいいけどチムチルバンの方がまるやかな熱さかな。(PB22_00257)

②9) 薄暗いドーム型の高架下には、廃墟チックな店や住居が並んでいる。(PB13_00275)

上記の3例はそれぞれ、「(Lingo は) 英語に似ている」「(韓国の「海母水」は) 日本の銭湯に似ている」「(高架下の店)は 廃墟に似ている」というような意味で使われている。

次の3例は、省略・飛躍のある文で、それを補わないと形容が理解しにくいものである。

③0) かつてニッポンには、そうした心理に強く訴える「自動車チック」なアクセサリーを搭載した少年用スポーツ車が氾濫した時代があった。(PB15_00302)

③1) お菓子チックなパッケージはバレンタインコレクション。チョコの香りのグロスとシアークリームシャドウで甘い恋到来? (PM41_00716)

③2) ピンクの♡ラインストーンにラブリーなりボンがついて姫チック。(PM41_00781)

③0)の「自動車チック」は「(自動車そのものではなく)自動車につけられるアクセサリーに似た」、③1)の「お菓子チック」は「(お菓子そのものではなく)お菓子に使われるパッケージに似た」、③2)の「姫チック」は「(姫そのものではなく)いわゆるお姫さまの着るドレスに似た」あるいは「お姫様にまつわるイメージに似た」というような意味で使われている。

また、3-3でも述べたように、「チック」は名詞に後接してナ形容詞を形成するための接尾辞であると考えられるのだが、BCCWJデータにおい

接尾辞「チック」について

では、ナ形容詞に「チック」を後接した語形（例：おしゃれチック、高級チック等）が異なり数で1割を超えていた。これらの語形は、接尾辞「チック」をつけなくてもナ形容詞なのであるから、この場合の接尾辞「チック」のはたらきは、品詞を変えるという文法的機能以外のものである。

接尾辞「チック」の、文法的機能以外の機能として、2つのものが考えられる。まずひとつは、文体表示機能である。

接尾辞「チック」の出現する新聞記事の文章の性質には制限があった。「娯楽提供を目的とした文章」もしくは「大衆的表現芸術に関する批評・紹介等の情報提供をする文章」において用いられていた。そうでない場合は、話しことばをそのまま写した直接引用のなかで用いられていた。また、BCCWJではサブコーパスによって、接尾辞「チック」の出現する割合が異なっていた（ブログ>雑誌>知恵袋>書籍>国会会議録>新聞、白書、広報紙、教科書、法律、韻文）。使われる文章・ジャンルの偏りと、その含まれる文章を読んだときに受ける印象を合わせて考えると、接尾辞「チック」は、口語的・娯乐的・堅苦しさをなくただけた感じ・おどけた感じ等のニュアンスを添えるはたらきをもっており、テキストがそのような文体であることを表示する機能を持っていると考えられる。

接尾辞「チック」の、文法的機能以外のもうひとつの機能は、「言い切り回避機能」とでも呼ぶべきものではないかと考える。「スキャンダラスな」ではなく「スキャンダラスチックな」、「面倒な」ではなく「面倒チックな」、を使うことにより、明確に言い切ることを避ける心理があるのではないだろうか⁶⁾。

ここまでの議論をまとめると、次の通りである。

- (ア) 接尾辞「チック」の造語力はかなりゆたかである。
- (イ) 前接要素としてとりうるものの可能性が広がりつつある。

(ウ) 意味・用法が広がりつつある。

(エ) ナ形容詞を作り出すという文法的機能以外に、文体表示機能ももつ。また言い切り回避機能が働く場合もある。

5 おわりに：今後の課題

外来語由来の接尾辞「チック」について、新聞記事データおよび書きこことばコーパスを用いて調べた。

15年間の毎日新聞全記事データによれば、接尾辞「チック」は、①低頻度ではあるが、②安定的・継続的な使用がみられた。

低頻度の理由は、接尾辞「チック」の文体表示機能が、使うことのできる文脈を強く制限するためと考えられる。いっぽう、安定的・継続的使用の理由は、前接語の自由度が高いために既成の語を使って次々とナ形容詞を作り出すことのできる便利さ、造語力のゆたかさであろう。名詞のみから名詞・ナ形容詞への接続の広がり、および、意味用法の広がり、もあることから考えて、今後ともとうぶんすたれずに使われることが予想される。しかし汎用性の低さから考えて、現在「基本語化」はしていないし、今後ともとうぶん「基本語化」はしそうもないと考えられる。

今回は「チック」の部分がカタカナ表記されているものを調べたが、実際には「おとめちっく」のようなひらがな表記の形もある。また、「チック」のバリエーションとして「ティック」の形もありうる。それらも含めた分析は、別の機会に譲る。

また、今回は15年間の新聞記事データおよびBCCWJを調べたが、さらに長いスパンでの通時的調査、すなわち明治時代からの通時的な調査も必要であろう。もともと-ticの訳語であった「的」や、「ふう」「ぼい」「みたい」などの類義語との比較も行う必要がある。

接尾辞「チック」について

注

- 1) 学術・研究向け商品（タグ付テキストデータ）「CD-毎日新聞データ集」の入手・使用が困難であったため、大阪市立中央図書館所蔵の一般コンシューマー向け商品「CD-毎日新聞」を使用した。
- 2) 毎日新聞記事データ（1991～2005）においては、「まんがチック」「マンガチック」「おとめチック」「オトメチック」という表記は出現しなかった。
- 3) 新聞データからの例文中で、必要と思われる場合には適宜、[] を用いて筆者注を入れる。
- 4) 例文(7)と(8)には、2カ所に「漫画チック」が出現するが、同一記事の中のタイトルと本文に重複して出てくるものなので、表1の作成にあたってはそれぞれ2つではなく1つと数えた。
- 5) 村中2011においては「現代日本語書き言葉均衡コーパス」モニター公開データ（2009年度版）のCD-ROM（略称BCCWJ2009）を用いた結果、接尾辞「チック」が24件検索されている（ひらがな表記の「ちっく」も含むと28件）。本稿で「中納言」を用いて検索したBCCWJは、BCCWJ2009よりもサブコーパスが増え、収録語数が大幅に増えたため、検索結果の出現語形も増加している。
- 6) BCCWJのウェブサイト上では、広報誌／広報紙の両方の表記があったが、本稿では「広報紙」に統一することにする。
- 7) BCCWJの「書籍」はサブコーパス「ベストセラー」「流通・書籍」「生産・書籍」に分けられている。「ベストセラー」は各年のベストセラー20位までに挙げられた書籍、「流通・書籍」は東京都内公共図書館で広く收藏されている書籍、「生産・書籍」は日本国内で発行された当該期間のすべての書籍、からそれぞれサンプリングされたものである。
- 8) 山口2007では語ではなく形態素としているが、およその数としてここに示すことにする。
- 9) 異なり数においては「漫画／マンガ」「乙女／オトメ」のように表記のみ異なる場合もまとめて一語として数えた。メルヘン・チックとメルヘンチックについても異なり数においては一語としてまとめた。
- 10) Yahoo! ブログにおける出典の文をみると、「セーラー服とほにゃらら編チックに撮影ってみまantaが萌えましたかあ～??」（原文ママ）となっている。

る。「セーラー服と機関銃」という映画に似たイメージで撮影をした、というような意味であろう。

- 11) 語種の判断は主に『新潮現代国語辞典第2版』によった。日本人名(固有名詞)は和語とした。
- 12) これは「CD-毎日新聞」の検索システムがカタカナ連続を検出しにくいために、新聞記事データにおける「チック」の前接要素の語種として外来語が少ないという結果が出た可能性もある。
- 13) ここでは、確実にナ形容詞であると判断できるもののみを挙げた。ほかに、オカルト、カルト、メルヘン、ヤンキー、理系、お嬢様、などもナ形容詞として使われる可能性がありそうだが、標準的ではないと判断した。
- 14) 「だ・です等」の中に、「なのは」「なんだけど」「なんでしょう」「やねん」も含めている。
- 15) 以下、BCCWJの例文は、末尾にサンプルIDを付して示す。
- 16) 「明確な言い切りを避ける」機能を持つという点で、「チック」は「的」と共通する。

参 考 文 献

- 柏野和佳子(2007)「「外来語」言い換え提案対象語の頻度推移類型—読売新聞・毎日新聞14年分を調査して—」『公共媒体の外来語—「外来語」言い換え提案を支える調査研究—』国立国語研究所報告126
- 金愛蘭(2006a)「外来語「トラブル」の基本語化—20世紀後半の新聞記事における—」『日本語の研究』2-2
- 金愛蘭(2006b)「新聞の基本外来語「ケース」の意味・用法—類義語「事例」「例」「場合」との比較—」『計量国語学』25-5
- 国立国語研究所(1964)『現代雑誌九十種の用字用語 第三分冊 分析編』国立国語研究所報告25, 秀英出版
- 国立国語研究所(1987)『雑誌用語の変遷』秀英出版
- 国立国語研究所(2005)『現代雑誌の語彙調査—1994年発行70誌』国立国語研究所報告121
- 小西友七・南出康世編集主幹(2001)『ジーニアス英和大辞典』大修館書店
- 鈴木俊二(2008)「和製英語の研究—その構造と思想」『国際短期大学紀要』23

接尾辞「チック」について

- 田辺洋二（1990）「和製英語の形態分類」『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』2
- 永田高志（1994）「和製外来語の複合語」『近畿大学文芸学部論集 文学・芸術・文化』6-1
- 中山恵利子・桐生りか・山口昌也（2007）「新聞に見る基幹外来語」『公共媒体の外来語－「外来語」言い換え提案を支える調査研究－』国立国語研究所報告126
- 野村雅昭（1977）「造語法」『岩波講座日本語9』岩波書店
- 野村雅昭（1984）「語種と造語力」『日本語学』3-9
- 橋本和佳（2010）『現代日本語における外来語の量的推移に関する研究』ひつじ書房
- 宮田公治（2007）「外来語「メリット」とその類義語の意味比較－新聞を資料として－」『公共媒体の外来語－「外来語」言い換え提案を支える調査研究－』国立国語研究所報告126
- 村中淑子（2011）「外来語由来の造語成分「チック」について」特定領域研究「日本語コーパス」平成22年度公開ワークショップ（研究成果報告会）予稿集
- 茂木俊伸（2007）「国会会議録を用いた外来語の分析－「イノベーション」を例として－」『公共媒体の外来語－「外来語」言い換え提案を支える調査研究－』国立国語研究所報告126
- 茂木俊伸（2008）「国会会議録における行政分野の外来語」松田謙次郎（編）『国会会議録を使った日本語研究』ひつじ書房
- 森岡健二（1985）「外来語の派生語彙」『日本語学』4-9
- 山口昌也（2007）「新聞記事における語彙の時間的変化分析－語種との関係を中心に－」『公共媒体の外来語－「外来語」言い換え提案を支える調査研究－』国立国語研究所報告126
- 山下喜代（2007）「現代日本語の語構成要素－外来語を中心に－」『青山学院大学文学部紀要』48
- 山田俊雄・築島裕・白藤禮幸・奥田勳編（2010）『新潮 現代国語辞典 第二版』（第2刷）新潮社

国際文化論集 No45

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（略称 BCCWJ）検索ツール
短単位検索 Web アプリケーション「中納言」

URL： <https://chunagon.ninjal.ac.jp/search>

『CD-毎日新聞』（1991～2005）日外アソシエーツ

『毎日新聞 縮刷版』毎日新聞社

Japanese Suffix *chikku* Derived from English “-tic” : Investigation Using Two Kinds of Data

MURANAKA Toshiko

The Japanese suffix *chikku*, of English origin, is examined using two kinds of data. The Japanese suffix *chikku* corresponds to the English suffix *-tic*. For example, in the word *mangachikku*, *chikku* attaches to *manga* (comics), and *mangachikku* becomes a *Na*-adjective, meaning “seemingly comic-like”. It is the purpose of this paper to investigate the use situation and the power which makes a new word from the Japanese suffix *chikku*.

Data1: CD–Mainichi Shinbun 1991–2005 (CD-ROM in which all the articles in Mainichi Newspapers were recorded with the full text.)

Data2: Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese (BCCWJ), created by the National Institute for Japanese Language and Linguistics.

BCCWJ is a corpus of a total of about 104,800,000 words, and the sample was extracted by random sampling, from 11 sorts of data: newspapers, magazines, books, textbooks, white papers, public information papers, texts of the law, verse, the Parliament minutes, Yahoo! wisdom, and Yahoo! blog.

As a result, the following things became clear. The suffix *chikku* is of low frequency. However, for 15 years, it did not disappear, but appeared every year, and stable and continuous use was seen. It is thought that the reason for the low frequency is that the style display function of the suffix *chikku* is to restrict strongly the context which can be used. On the other hand, it is thought that the reason for stable and continuous use is that the flexibility of the word placed immediately before *chikku* is high. That is, one new *Na*-adjective after another can be made by suffixing *chikku* to an established word. Any word

of Japanese origin, a Chinese word, a foreign word, or a hybrid word may be sufficient as the element attached before *chikku*.

Although *chikku* has become a suffix placed behind a noun and to form a Na-adjective, in the data in 2, there are some word forms (e.g., *osharechikku* (fashionable), *koukyuuchikku* (seemingly high rank), etc.) which placed *chikku* behind a Na-adjective instead of a noun, over ten percent by number. Furthermore, if the data in 1 are compared with the data in 2, since examples linked to a phrase instead of a word and examples linked to a proper noun instead of a general noun are seen in the latter but not in the former, it will be suggested that the possibility of connection is increasing.